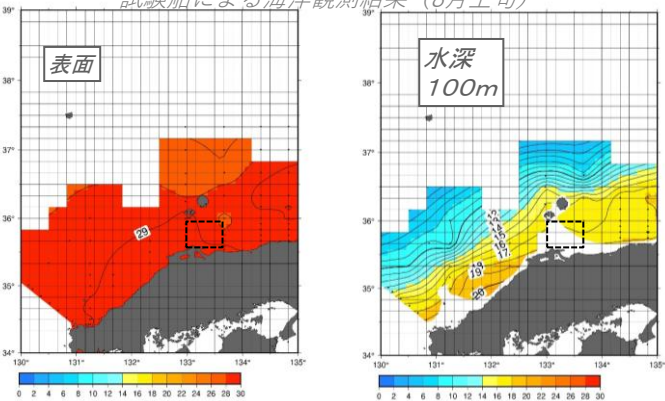
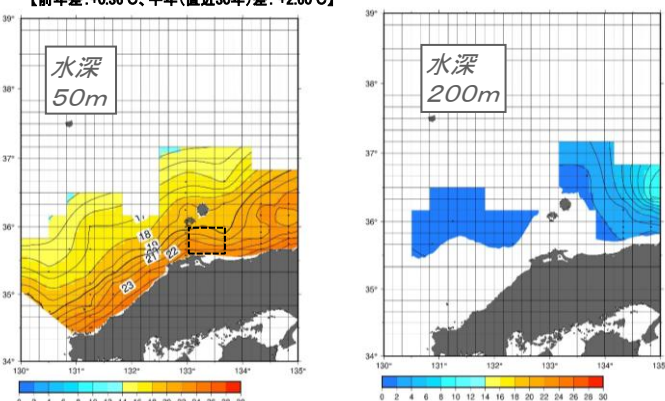


発行 鳥取県水産試験場 (電話: 0859-45-4500)
試験船による海洋観測結果 (8月上旬)



隠岐海峡と鳥取県沖(点線範囲内)の
平均水温は28.9℃を示しています。
【前年差: +0.36℃、平年(直近30年)差: +2.60℃】

平均水温は16.6℃を示しています。
【前年差: +0.70℃、平年(直近30年)差: +0.42℃】



平均水温は21.4℃を示しています。
【前年差: +1.83℃、平年(直近30年)差: +1.18℃】

鳥取県東部沖には10℃以上を示す暖水域が
確認されました。

水産試験場

R8年度マアジ・クロマグロ報告会を開催しました！

鳥取県営境港水産物地方卸売市場において、8月7日(金)に、境港地区の水産関係者を対象に、以下のとおり、今期のクロマグロの水揚げ状況及び市場調査結果やマアジ新規加入量調査(幼魚調査)などの結果に関する報告会を開催しました。



45名の皆様のご参加
ありがとうございました！

〇クロマグロの水揚げの特徴等について

- ・蓄養向け増加などに伴い、水揚量は前年から190トン減少し、941トンとなった。
- ・単価は1,779円/kgと過去20年間で2番目に高い水準となった。
- ・3歳以上の各年級群(ある年に生まれた魚の集団)が満遍なく漁獲された。
- ・資源の回復を受け、来漁期も、引き続き、漁獲枠上限まで漁獲できる見通し。



図1 市場での調査の様子

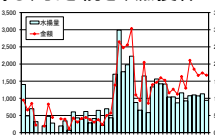


図2 境港港のクロマグロの水揚量・金額

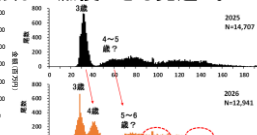


図3 体重組成(前年との比較)

〇マアジ0歳魚の分布状況と今秋の漁模様

- ・今年の調査では、当場の担当海域が試験船の不具合発生により欠測となった関係で、0歳魚の加入量指標値は参考値扱いであるが、前年から減少した。
- ・近年、夏以降の水揚げは、1歳魚以上(尾丈長15～20cm台)が主体のため、前年の加入量指標値から、1歳魚の漁況を予測した結果、前年から増加する見込みとなり、今秋のマアジ水揚量としては、前年・平年並み(並みの範囲で増加)の見通し。

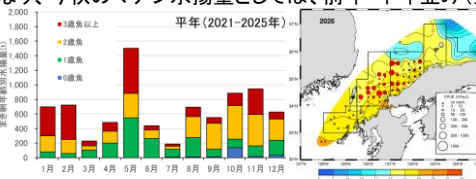


図4 2021～2025年のマアジの月別年齢別平均水揚量

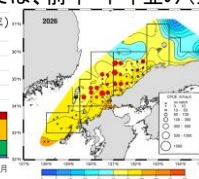


図5 2026年調査におけるマアジ幼魚の採集量

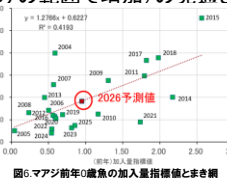


図6 マアジ前年0歳魚の加入量指標値とまき網1ヶ所あたりの1歳魚漁獲尾数

令和8年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136

電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424

境港営業所 鳥取県境港市栄町92番地1 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

水産振興課・漁業調整課

漁労作業中の熱中症にご注意ください！

県内では、8月以降も気温35℃を超える猛暑日が続いています。漁労作業中の熱中症には十分ご注意ください。

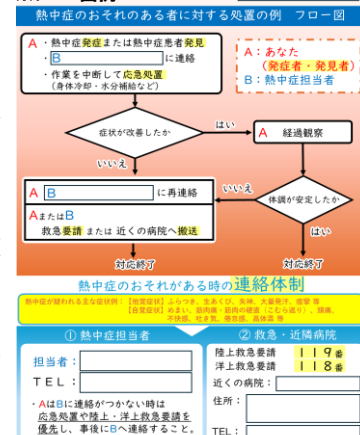
労働安全衛生規則(昭和47年労働省令第32号)が一部改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することが可能となるよう、「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」を令和7年6月1日から義務付けられました。熱中症による死傷災害を防ぐため、これらの対策を適切にとられるよう、お願いします。詳しくは、厚生労働省のホームページをご覧ください。

また、熱中症のおそれのある時の対処については、水産庁が右のフロー図を作成していますので、ぜひご活用ください。

【厚生労働省HP】
<https://neccyusho.mhlw.go.jp>



※フロー図例



フロー図のダウンロードはこちらから→
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/anzen.html#nettyuusyoyu>

栽培漁業センター

ムシガレイ(紋ガレイ・水カレイ)稚魚の生き残りが良好です

毎年、小型桁網で底魚稚魚を採集し、生息状況等を調査しています。令和8年の調査では、5～8月にかけてムシガレイ稚魚が多数採集されました。過去の資源が良好であった時のムシガレイ稚魚は4～7月に水深80m以浅の海域に出現し、8月頃成長に伴い沖合へ移動していました。今年は5～7月に80m以浅において、8月には100～120mにおいて一定数の分布が確認できており、生き残りが良好で、分布も資源が良好であるときと同様の傾向にある等よい兆しが見えています。これらの稚魚が実際に漁獲サイズとなるのは早くも2年後からですが、資源の回復とともに漁獲量の増加を期待しています。

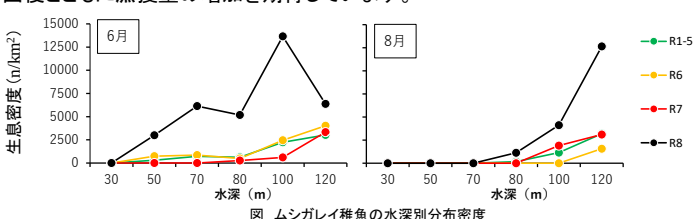


図 ムシガレイ稚魚の水深別分布密度

